



## <定点把握感染症>

疾患名	全国		山形県				山形市保健所			村山保健所			最上保健所			置賜保健所			庄内保健所			累積(県)
	第44週	第45週	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第44週	第45週	増減	第1~45週	
インフルエンザ定点(定点医療機関数)			(45)				(10)			(10)			(4)			(9)			(12)			
インフルエンザ	23																					67
	0.00																					
小児科定点(定点医療機関数)			(29)				(6)			(7)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	795	3	4	▲							1		▼					2	4	▲		3038
	0.25	0.10	0.14							0.33								0.29	0.57			
咽頭結膜熱	367	21	25	▲	1	1		4	6	▲				9	13	▲	7	5	▼		476	
	0.12	0.72	0.86		0.17	0.17		0.57	0.86					1.50	2.17		1.00	0.71				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1621	19	33	▲	1	1		13	24	▲				5	7	▲		1		▲	1287	
	0.51	0.66	1.14		0.17	0.17		1.86	3.43					0.83	1.17			0.14				
感染性胃腸炎	8416	51	69	▲	20	29	▲	11	23	▲				18	14	▼	2	3	▲		2769	
	2.67	1.76	2.38		3.33	4.83		1.57	3.29					3.00	2.33		0.29	0.43				
水痘	323	3	4	▲							1		▼		2	▲	2	2			119	
	0.10	0.10	0.14							0.33					0.33		0.29	0.29				
手足口病	4805		1	▲					1	▲											66	
	1.52		0.03						0.14													
伝染性紅斑	33		1	▲		1	▲														15	
	0.01		0.03			0.17																
突発性発しん	1161	17	11	▼	4		▼	1	1		3	1	▼	5	5		4	4			642	
	0.37	0.59	0.38		0.67			0.14	0.14		1.00	0.33		0.83	0.83		0.57	0.57				
ヘルパンギーナ	1625		3	▲					3	▲											388	
	0.52		0.10						0.43													
流行性耳下腺炎	115	2	1	▼	2		▼		1	▲											53	
	0.04	0.07	0.03		0.33				0.14													
眼科定点(定点医療機関数)			(8)				(1)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	-																					0
流行性角結膜炎	141		2	▲		1	▲					1	▲								53	
	0.20		0.25			1.00						1.00										
基幹定点(定点医療機関数)			(10)				(2)			(2)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)																						1
クラミジア肺炎																						0
マイコプラズマ肺炎	8	1		▼	1		▼															5
	0.02	0.10			0.50																	
細菌性髄膜炎	7																					2
	0.01																					
無菌性髄膜炎	14																					0
	0.03																					

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数  
 ※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

## <全数把握感染症>

疾患名	報告数					備考
	山形市	村山	最上	置賜	庄内	
結核	1					
腸管出血性大腸菌感染症				1		型別:O121 VT2
カルバペネム耐性腸内細菌感染症				1		

## <通信欄>

**※新型コロナウイルス感染症情報について**

新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システムの運用開始に伴い、新型コロナウイルス感染症は週報の対象外となりました。

山形県の新型コロナウイルス感染症に関する情報は、右記の「新型コロナウイルス感染症に関連するポータルサイト」をご覧ください。(QRコードを読みとるかPDFファイル上でクリックしてアクセスしてください。)

## ※警報・注意報の基準値

疾患名	警報レベル		注意報レベル
	開始	終息	
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。  
 ※ウイルス分離・検出状況については、衛生研究所のHPをご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	合計
インフルエンザ															0
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	1	2												4
咽頭結膜熱		1	11	5	4	2	1	1							25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				7	2	3	3	6	3	1	1	3	1	3	33
感染性胃腸炎	2	4	16	10	4	7	5	5	2	4	1	8	1		69
水痘									1	1		2			4
手足口病					1										1
伝染性紅斑			1												1
突発性発しん		4	5	2											11
ヘルパンギーナ		1	2												3
流行性耳下腺炎							1								1

< 令和3年10月 月報 >

※メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告数が修正されました。(1～9月分)

2021年11月17日 発行

疾患名	山形県		山形市		村山		最上		置賜		庄内		累積(県)
	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	
<b>STD定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(3)		(1)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 16	14	7	6	3		2	4		1	4	3	152
	定点当り 1.60	1.40	2.33	2.00	3.00		2.00	4.00		0.50	1.33	1.00	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 8	15	1	5		1	4	4	1	3	2	2	93
	定点当り 0.80	1.50	0.33	1.67		1.00	4.00	4.00	0.50	1.50	0.67	0.67	
尖圭コンジローマ	報告数 2	3	1					3			1		19
	定点当り 0.20	0.30	0.33					3.00			0.33		
淋菌感染症	報告数 8	6	2	2				2	1	1	5	1	36
	定点当り 0.80	0.60	0.67	0.67				2.00	0.50	0.50	1.67	0.33	
<b>基幹定点</b> (定点医療機関数)	(10)		(2)		(2)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 2	5		2			1	1		1	1	1	38
	定点当り 0.20	0.50		1.00			1.00	1.00		0.50	0.33	0.33	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 14	10	1	2	2	3			5		6	5	124
	定点当り 1.40	1.00	0.50	1.00	1.00	1.50			2.50		2.00	1.67	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数	1										1	1
	定点当り	0.10										0.33	

< トピックス >

咽頭結膜熱の報告が増えています

咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、山形県では10月以降定点当たりの報告数が増加しています。

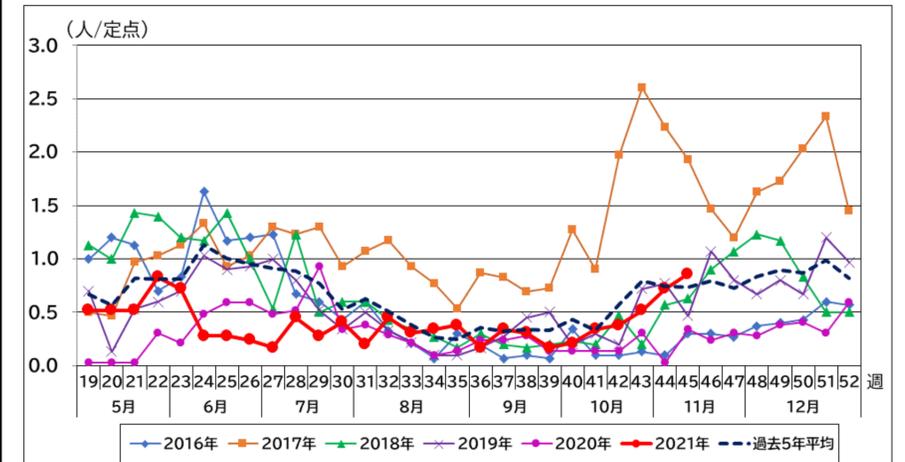


図1 県内定点医療機関における咽頭結膜熱患者報告数の推移

咽頭結膜熱とは

1. 感染した場合の症状は？

発熱後、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭痛、結膜充血、眼痛などがみられます。アデノウイルスに特異的な抗ウイルス薬がなく、対症療法が中心となります。生後14日以内の新生児に感染した場合、全身性感染を起こしやすく、重症化することが報告されています。

2. 感染経路と予防のポイント

感染経路は、患者の咳、くしゃみからの飛沫感染、ウイルスの付着した物質を介した接触感染です。患者からの家庭内感染を防ぐためには、入浴、タオル、洗面用具などを別にし、流水・石けんによる手洗いを十分に行ってください。県内の咽頭結膜熱患者数は近年減少傾向ですが、引き続きマスク着用など、ウイルスによる感染予防対策をお願いします。

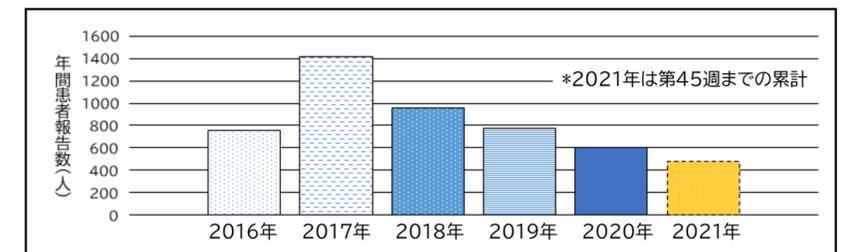


図2 県内定点医療機関における咽頭結膜熱患者報告数(2016-2021年)